

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第2回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年6月25日(木) 午後4時00分～午後5時40分	
会場	練馬区役所本庁舎11階 1101会議室	
出席者	委員	越生詔二、佐藤宏、石原正義、久能正吾、一ノ瀬秀治 相田真人、小林昭文、山崎高志、須佐一、濱元雅俊（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	栗原健 指導主事

### 1 アドバイザーの挨拶

部長

今日は忌憚のない意見をお聞きしながら方向性を定めていきたいので、お願いします。

アドバイザー

前回の大会を受けて、私は議論をたくさん重ねることが大事だと思っている。さまざまな課題を、ある程度の共通認識にいたることが、その後たいへん参考になると思う。

事務局

今日配布した資料について。一つは前回アドバイザー先生からご紹介いただいた「江戸しぐさ」。千代田区の教育委員会の道徳部が作成した資料である。それから、「小中一貫教育校だよ」。このように区民にも広く情報を公開していく。

### 2 協議

委員

テーマが「本部会で作成する『心の教育の推進』カリキュラムの方向性」とある。

事務局

前回配布した資料の推進委員会の答申の中の定義という形である。ここに示されているキーワードは落とせないと思う。なんらかの形でこの部会でも取り上げていただきたいことである。

委員

では、最初に（1）大泉学園桜小学校における課題について。

委員

まず、小中のかかわりとしての課題は、隣にありながら教員同士の行き交いがほとんどない。校区別協議会が開かれても、指導要領の解説などお互いに備えていないというような状態で、お互いにわかっていない。

それから桜小学校の課題になると思うが、授業で習った道徳の学習ではわかっていてもそれを生活に活かすことができない児童も多い。集団になると歯止めがきかないことがある。言われて

いないことは進んではできない。また下の学年であればあるほど、朝食を食べないなど生活習慣に乱れがある児童が多くなるという状況がある。更に子どもたちのさまざまな体験の少なさが見受けられる。

**委員**

小中連携のときに、子ども同士の活動は何かあるか。

**委員**

クリーン運動として地域のごみを拾う活動を年1回行っており、中学1・2年生が主に小学生とかかわっている。あとは、小学6年生に部活を見学させていただいている。

**委員**

『教育便り』（H21.1.30 区発行）の中に、今の話と合わないところがある。「小中一貫教育校に関する Q&A」に「どうして大泉学園桜小学校と桜中学校が選ばれたのですか」という質問に対して「教育指導の充実。2点目に小中連携の実績」とある。いつのことか。

**委員**

行っているのは、クリーン運動。運動会は交流がなく、今年は時期も違う。用具の貸し借りをしないとできない状況でもある。卒業生の競技に中学生が出てくるが、全員ではない。以前に「生徒会はこんなことをやっています」というものを6年生に見せたことはあった。

**委員**

ではこの実績はどこから出ているのか。

**事務局**

例えば教員の交換授業、出前授業などが想像されるかと思うが、現在十分には実施できていない。

現状としては、連絡会の情報交換、授業公開のときお互いの先生方が行き来する姿もあると聞いている。やはり生活時間帯が違うので、避難訓練もなかなか一緒にできない。

9年間の義務教育によって生活指導上の課題や不登校などの問題についても改善を図れるのではないかと期待している。

**委員**

本校は練中との交流があり、6年のために英語や社会の先生が来て授業をしてくれる。それから自校の出身者で生徒会の役員になっている子が来て、中学校自慢をしてくれる。それと地区の行事に、中学校がブラスバンドの演奏に来てくれる。また中学校の部活体験の呼びかけを、積極的に先輩が小学校に声をかけに来てくれる。

それでも小中が連携することに対しては、課題をきちんとつかまないと、本当の意味での連携はなかなか進まないのかなと思う。

#### 委員

学習指導要領に「それぞれの学校の教育の課題を正しくとらえ」るためには、「地域や学校の実態およびその学校の児童の心身の発達の段階・特性を把握するために、全教職員が共通理解をもつ」となっている。まずは、一般論よりもこの学園小中の課題をもっと掘り下げられるとよいのではないかと。

#### 委員

中学校として、小中連携を考えたときの課題は、本校の場合2学級になるか1学級になるかという規模を維持することを目標に連携授業を考えているほど、非常に切実な問題としてやっている。

#### 委員

本校は学校自由選択制によって半分以上が学区域外からで、20校くらいの小学校から来ているので、学区によって少し違ってくるのかという思いがある。

心に関して本校が小学校と連携をやろうとしたのは、一つは優しさとか思いやりとかだと言える。小学生から見たら、生徒にも教師にも不安があると思う。授業を見てもらうことによってその不安をなくしたり、あこがれを感じられたりすることができるのではないかとということもある。

#### 委員

本校での最近の小学校の子どもの課題について。まず一点目は、他人を非難するような子供が増えてきている。更にそれを解決する調整力がなく、教師が入っていかなければならない。6年生を見ても発達段階が遅くなってきているかなという印象を受けている。自分たちで何かを気づいて行動することが難しい。

二点目として、良い悪いより理屈を優先させることがある。周りの人が違うと教えないといけない。これらはモラル、道徳についてだが、マナーについては、やはり言葉遣いが年々悪くなってきているなという印象を受ける。

#### 委員

やはり言葉遣いでは低学年のほうから少しずつ崩れているような感覚を受ける。

#### 委員

どこの小学校もだいたい同じような実態だと思う。

私は、あえて小中一貫にしたことで非常に効果的に指導できるようにするためには、基本方針は枝葉で、本当の太い幹の部分となる建学方針のような、小中一貫の教育目標みたいなものが非常に大事なのではないかと考える。

#### 事務局

やはりその学校ならではのというのは非常に大事なことであり、明確にそれを打ち出す必要はあるかと思う。それと併せて、この委員会は2校目の可能性も含めて、区としての小中一貫教

育校の目指す姿として、カリキュラムを提案する部会になる。

#### 部長

この前校区别協議会のときに、小中一貫教育の接続連携の方法で、子ども同士の交流と教職員同士の交流ということ、それから教育課程の編成指導方法の処遇などというのが出ていた。

どれが一番キーになるか、私は教職員同士の交流ではないかと。やはりこれがきちんとできないと、実際に一貫教育の本当の効果を出すのは難しい、小中一貫の枠組みを作り、組織も変えていって初めて連携ができるのではないかと。あと小学校の課題は、中学校でも共通している。言われたことはやるが、例えば実践面ではなかなかない。道徳的判断までできても実践に結びつかない。

ただ運動会とか行事のときにはすごく燃えるので、集団意識や、思いやりの精神など、行事で心を育てることができているのではないかと。

#### 委員

やはりいろいろな問題があったときに、押さえていくことは何なのか。価値と価値観だと思う。ただ、それぞれの生徒でも家庭でも価値観が違っている。やはり規範意識に対する価値観、それを高めてあげなければ心というのは育たない。

#### 委員

今までの話は非常に道徳教育の理想を話しているような感じだが、小中一貫教育校設置の意義と効果というのは、もう少し具体的に出ているような気がする。

学校全体に流れる先生たちの生き方そのものを「道徳的に」という、すごく大きな話をしていくのか。それともどうやって道徳の授業をつくるのかとか、どうやって先生たちにしてもらうのかとか、そんな話。どっちも考えながらいくということでのいいのか。

#### 事務局

道徳の時間の充実だけではないだろうというのが、心の教育という名称にしているということでもある。

#### 委員

それはわかっている。学校教育全体で道徳にぶつかっていくようなカリキュラムを考えようとは思っているが、先生の生き方まで考えていくと少し私的かなとも思う。

#### 事務局

無意識のうちに指導してこともたくさんある。例えば先生方の共通した話し方とか接し方など。ただ焦点を絞っていくと、計画的に指導していくにあたって、どのような教材を使い、また教育課程上どこに位置づけるのか。それは道徳の時間なのか、総合的な学習の時間または特活の中の学校行事や学級活動なのか。そういったことを明らかにした指導内容、指導資料、学習資料をつくっていききたい。

#### 委員

では、どうやって道徳にかかわるか、学校行事と道徳の関連、そして教科との関連が図れないかということである。自分は理科との関係でということ、全体計画の違った形をつくろうかなと思っている。意識すれば、小中一貫校のときも各教科と道徳が関連づけてできるかなと思う。

#### 委員

まとめると、一つめは桜小の課題は他にも同じように抱えているということ。二つ目の、各委員が考える課題については、もう1回整理して、課題をさらに見つめ直していきたい。

三つ目として、2年間研究してくださった小中連携に関する貴重な意見を、これからこの会で勉強させていただければありがたい。

#### 委員

「江戸しぐさ」の練馬区らしいものが何かないのかという話から。地域によって同じ練馬区でも違うんだなということの実感がある。ただ共通しているのは、地域の人たちがいろいろな面で手伝ってくれたり協力してくれるのが練馬だという思いがあったので、何かでできるのかなど。

あと本校の実態としてインターネットと携帯の使用に関して課題がある。例えば一部の生徒であるが深夜まで起きてメールをし、そこから寝て学校に来ているという実態もわかってきた。こういう現代の抱える問題をとらえたものやっつけていかなければいけないと思った。

#### 委員

中学校の課題として、道徳の授業を確実にやれる方法を考えている。そのために指導案集が完全に一貫になれば、9年間のものの35倍。そして、一つの内容項目に対して三、四つのストックがあればいいと思う。その指導案は毎年書き換えて、通り一辺倒のものではなく実践した結果ができるといい。

#### 事務局

小学校の道徳の授業と中学校は現状が異なる。この部会で小中合わせて、それぞれの課題を補うようなものができてくればいいと思う。

#### 部長

他の市区の例を見ると、方向として道徳に特化するような形、市民科というような考え方がある。それについてはこれから考えていくということによいか。

#### アドバイザー

今回の学習指導要領では全教育活動を通して道徳教育というのは行うのだと強調している。道徳教育というのは人間性教育で、人格の完成とを目指して行うのだと。

学校の教育課程において各教科というのは、人格形成の非常に重要な部分を担っている。したがって、私の考え方としては心の教育は何か別のことをやるように感じるが、現在行われ

ている学校教育、教育課程論というのは調和のとれた人格形成をやっているということ。

そのことをもう一度こういうもので振り返ってみるのもたいへん大事なのではないかと思う。全面主義の考え方というが、すべての教育活動というのは人間形成につながっている。そういう意識を先生たちはもってやりましょうということだ。

もう一つは小学校から中学校に入るときに、子どもたちが不安を非常に抱えているということ。その背景には何があるのか、理由はあるはず。小学校を卒業して中学校に入ったときにギャップがなぜ生ずるのか。不安になっているものの背景を押さえたものにしていかないといけない。本区の地域や保護者の方は学校をなんとかいい学校にしてほしいという願いがあると思う。それに応えることにつながるとよい。

心の教育の部分で地域とか保護者の価値観は子どもにそっくり入っている。それも視野に入れながらやらないと、そこから分離したものをやっても実効性がないものになってしまう。ある意味、この基本方針にかかわるものは、いろいろ議論しながら実行可能な部分を常にイメージしながらやるという以外ないのではないか。

もう1点だけ、親の価値観の話が出た。「少子良育論」。子どもの数が少ない。したがって、良い教育をしてあげる。そのためにお金を稼ぐよう、親自身が生き方を変える部分が出てきた。ところが、お金をかけて手厚くひ護し、教育指導を繰り返したから必ずしもその良育論が成功するとは限らない、破たんすることも多いにある。人間はものではないから、生き物だからということに、私は心の部分としてつなげていきたいという気がしていたので、また機会があったら議論したい。

学校に対する要望も親自身のレベルの目標実現のための要望、欲求が多くなってくのではないか。そうした方々に本来の人間の心に立ち戻ってもらえるような中身ができれば最高だと思う。少子良育論といったものに対しての一つのテーゼ、提案みたいなこともできれば意味があるのでは。

### 3 まとめ

#### 委員

次までに、一人が一つ何か資料を用意してくるという形でよいか。例えば町田の資料を参考に、練馬区だったらということを、考えて書いてきてもよいのでは。

#### アドバイザー

この資料のような全体計画があるなしではだいぶ違う。私流の表現をすると、これは引き出しだ。具体的にこの単位ではこれというもので、そのイメージがわかる。すべて完成するのは大変だが、他の教科も同じようにすればできるということがイメージできるから、これは話し合いの材料になると思った。

以前多摩研で道徳の指導案を蓄積していた。研究事業をやった時の資料を使えるかどうか判断する。今はもうインターネットか何かでパッと引き出せるものが、ないのか。教育センターでやっていないのか。そんなことができると相当程度違うのかという気がする。

#### 委員

では、今ある段階のものという前提で。今ないところもあるので、ある方はそれを。あるけ

れどももう少し自分で付け足したり資料として投げかけやすいものにしてもいいということで。

#### 事務局

見たいのはやはりおよその時期である。やはり年間指導計画があったほうがいい。

#### 委員

そうすると、ない学校もあるので、何かこの各学習期のⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期を「目指す子どもの理想像」等の資料をそれぞれ用意するというだけでもよいか。プロットも急にはできないので、全体計画等がなくてすぐにできないという人は、少したき台になるようなものをお互いに持ち合えば、深めていけると思う。